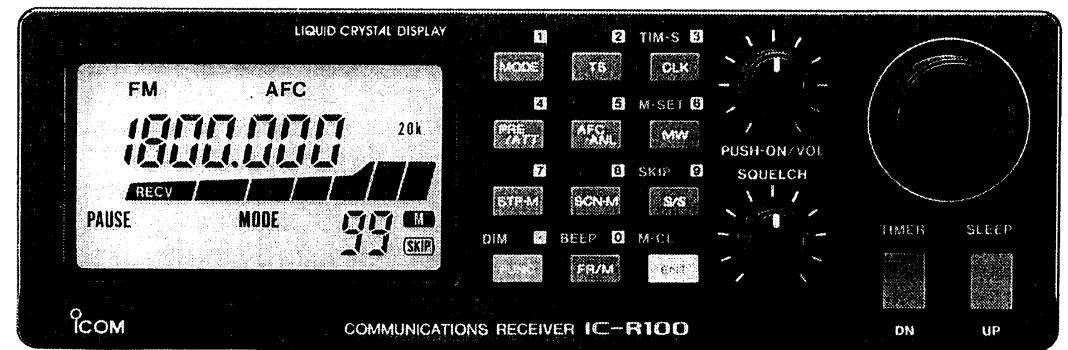


ICOM

取扱説明書

COMMUNICATIONS RECEIVER  
**IC-R100**



Icom Inc.

# はじめに

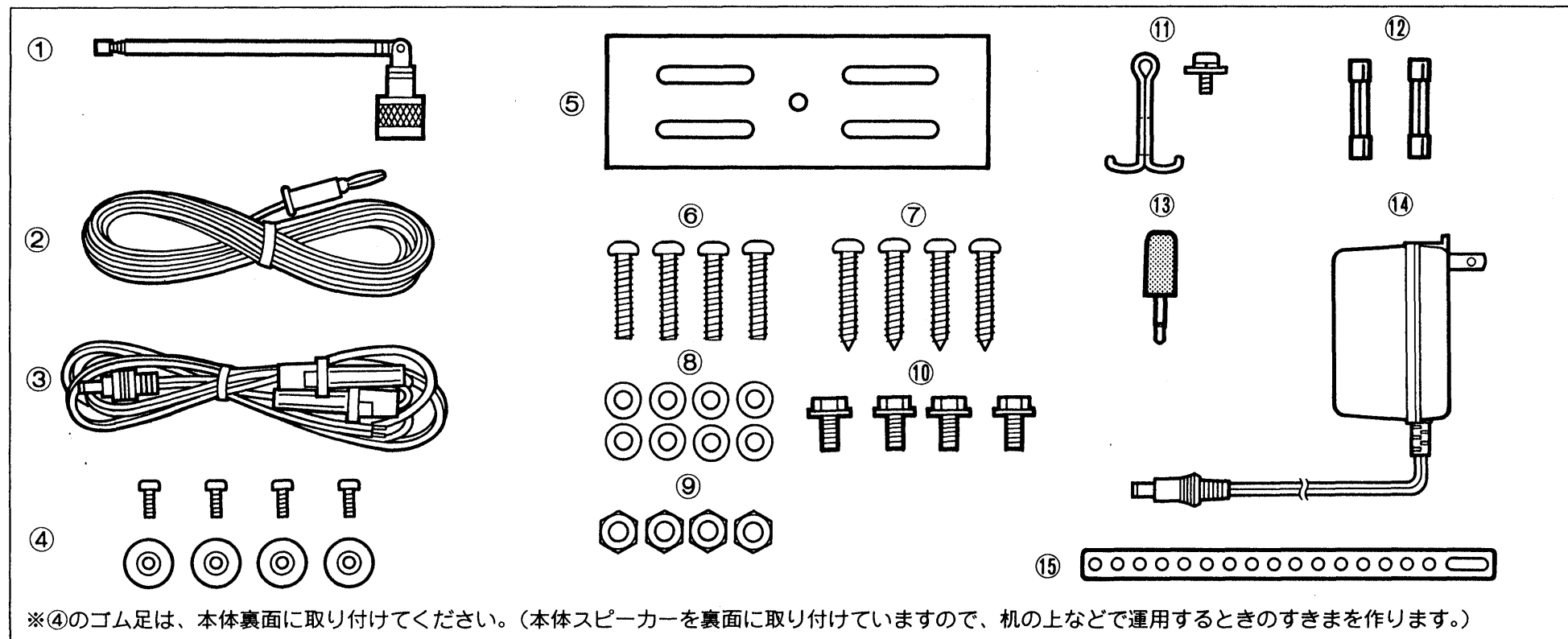
このたびは、IC-R100をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。  
どうぞいます。

本機は、W FM/FM/AMモードを備えていますので、ラジオ放送、テレビの音声、航空無線、海洋無線、陸上移動無線、アマチュア無線など、いろいろな電波を、簡単にお楽しみいただける受信機です。また、屋内での固定運用や、車載でのモバイル運用など幅広い運用が可能です。

本機を正しくご使用いただくために、この取扱説明書をよくお読みくださるようお願いいたします。

## 付属品

- ①ロッドアンテナ
- ②ワイヤーアンテナ
- ③DC電源コード(ヒューズ付)
- ④ゴム足(ビス付)×4
- ⑤車載用取り付け金具(ブラケット)
- ⑥取り付け用ビス×4
- ⑦取り付け用タッピングビス×4
- ⑧ワッシャ×8
- ⑨取り付け用ボルト×4
- ⑩フランジボルト(ワッシャ付)×4
- ⑪電源コード止め金具(ビス付)
- ⑫予備ヒューズ×2
- ⑬スピーカープラグ
- ⑭ACアダプター付電源コード
- ⑮取り付け用補助金具



# 目次

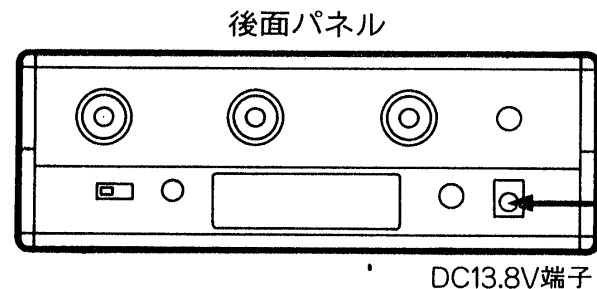
1. ご使用の前に	2	9. モードスキャン	21
2. 各部の名称と機能	4	10. モードスキップスキャン	21
1. 前面パネル	4	11. メモリーをクリア(消去)する方法	21
2. 後面パネル	5	7. 時計&タイマー機能について	22
3. キーボード	6	A) パワーオンタイマーのセットと動作	24
4. ディスプレイ	7	B) パワーオフタイマーの動作	25
3. 基本操作	8	C) メモリーオンタイマーの動作	25
1. 受信するための準備	8	D) 時計の合わせかた	25
2. キーボード選局のしかた	9	E) スリープタイマーのセットと動作	26
3. 受信MODE(電波型式)のセット方法	9	■各種タイマーの解除(中断)方法	26
4. 選局のしかた	10	8. その他の機能	27
1. 選局方法の種類	10	A) PRE(プリアンプ)のON/OFF	27
2. チューニングステップの設定のしかた	10	B) ATT(アッテネーター)のON/OFF	27
■チューニングの微調整	10	C) AFC(自動周波数制御)のON/OFF	27
3. 電波型式について	11	D) ANL(オートノイズリミッター)のON/OFF	27
4. ダイヤル、UP/DNスイッチで選局する方法	11	E) ビープ音のON/OFF	27
5. メモリーチャンネルについて	12	F) 5秒タイマーについて	27
1. メモリーチャンネルとは	12	G) DIM(ディマー)のセット	27
2. M-CHの呼び出しかた	12	9. 車載時のセッティング方法	28
3. M-CHへ記憶させる方法	13	10. アンテナについて	29
4. M-SETの使いかた	13	11. 日常の保守について	30
6. 各種のスキャンとその操作	14	A) CPUリセットについて	30
1. スキャンについて	14	B) リチウム電池について	30
2. プログラムスキャンの使いかた	16	C) 故障かなと思って	31
3. プログラムスキップスキャンの使いかた	17	■故障のときは	31
4. オートメモリーライトスキャン	18	■ヒューズの交換	31
5. オートメモリーライトスキップスキャン	18	受信可能な周波数と電波型式について	32
6. プライオリティスキャン	19	定 格	33
7. メモリースキャン	20	オプション	33
8. メモリースキップスキャン	20		

# 1

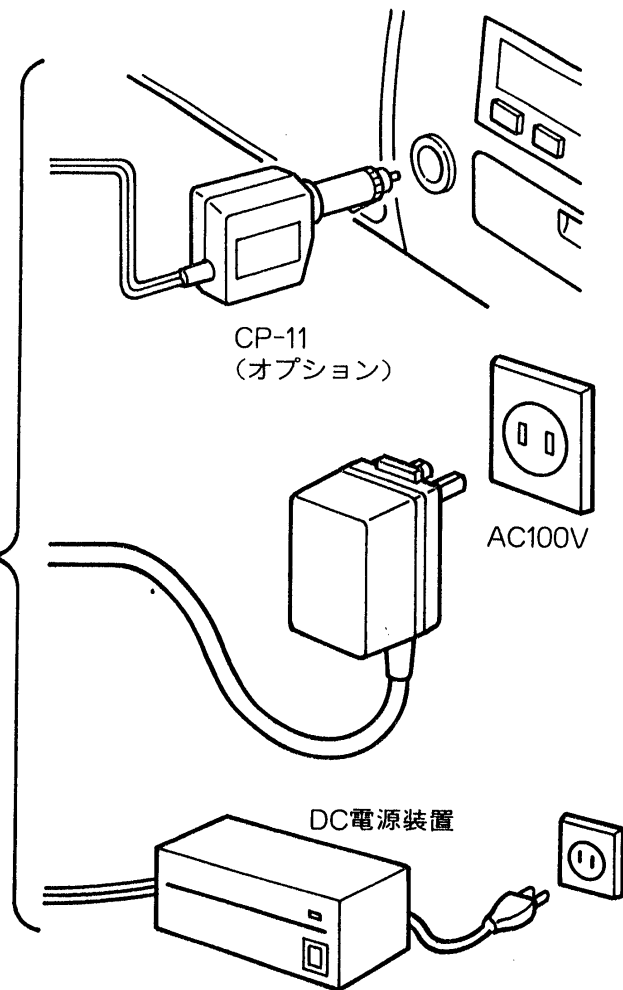
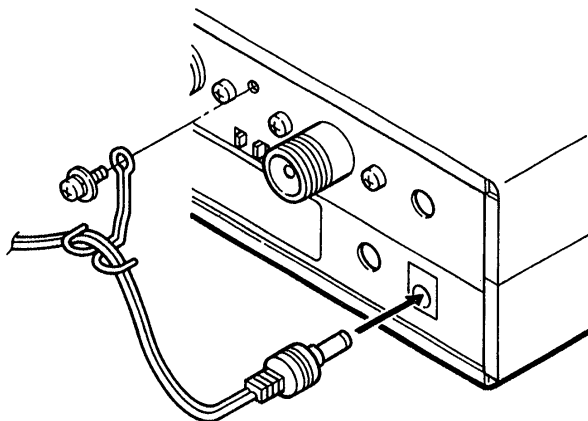
## ご使用前に

### ■本機の電源について

本機はDC13.8V仕様です。  
24V系のバッテリーには直接接続できません。  
また、AC100Vを使用するときは、必ず付属のACアダプターを接続してください。



■車載時は電源コードが脱げないように、後面パネルに付属の止め金具を取り付け、電源コードを通してください。



付属電源コードの極性  
⊕プラス シロクロ  
⊖マイナス クロ

#### 車載では

エンジンキーで電源が切れるアクセサリー回路に接続してください。本機の電源をOFFにしても、時計表示を行う機能がありますので、バッテリーから直接電源をとる場合は、バッテリーあがりを防ぐためこの機能をOFFにしてください。(P5の⑤スイッチ参照)

#### 屋内では

付属のACアダプター付電源コードで、家庭用AC100V電源に接続してください。

#### DC13.8V外部電源

DC13.8Vの電源装置をお持ちの方は、DC電源コードで接続してください。

車へのセッティング方法は28ページをご覧ください。

## ■使用上のご注意

- 電波法第59条で『特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受してその存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない。』と通信の秘密に関して定められています。
- 本機は広帯域受信機ですから、受信機内部の発振(スプリアス)により、受信できなかつたり、雑音を発生する周波数もあります。
- パーソナルやアマチュア無線機を使って、本機の至近距離で送信すると、本機が誤動作する場合があります。  
アンテナを1m以上離し、必要時は本機のアッテネーター(ATT)を動作させながら受信してください。
- 使用する地域によって、外部アンテナを使用したり、近くに強い電波があるときなど、妨害を受けることがあります。  
アンテナは受信周波数に合った専用のものが市販されていますが地域差や電波の状況により受信できない場合があります。
- チューナーやテレビなど他の機器に妨害を与えるとき、または、ワープロやパソコンなどから影響を受けるときは、できるだけ距離をおいて設置してください。
- 屋外アンテナを使用しているときに、雷が鳴りだしたら、遠くで鳴っているうちにアンテナを本機から抜いてください。  
近くで鳴っているときは、アンテナコネクタに帯電していることもありますので、ACアダプターをACコンセントから抜いてください。

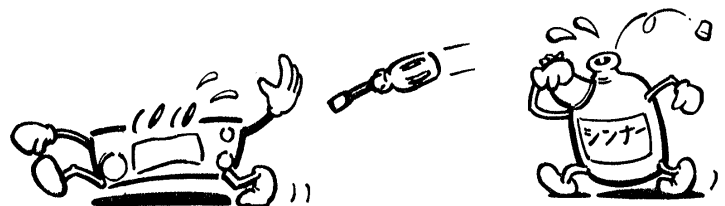
## ■使用場所について

- 極端に高温になるところ、湿度の多いところ、ホコリの多いところなどでの使用はさけてください。
- 直射日光のあたる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所への設置は、さけてください。



## ■日常の手入れについて

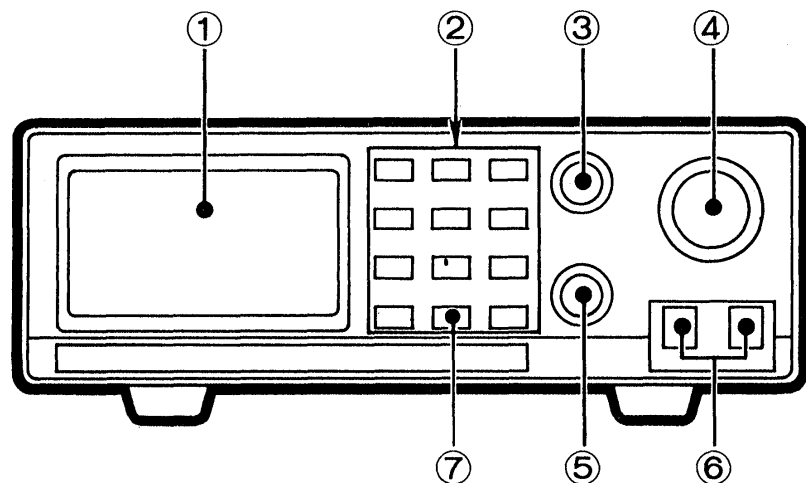
- 本機にホコリや汚れなどが付いた場合は、乾いたやわらかい布でふいてください。  
シンナーやベンジンなどの有機溶剤を用いないでください。
- 本機は厳重な管理のもとで生産、調整されていますので、ケースを開けて内部の部品に触らないようにしてください。



# 2

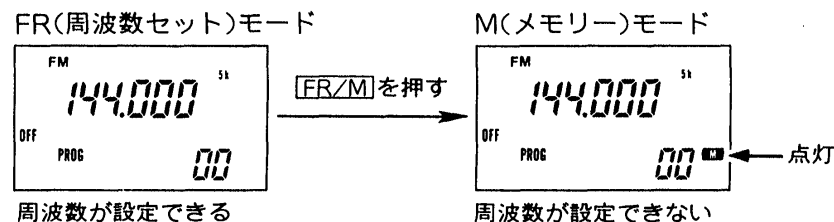
## 各部の名称と機能

### 1. 前面パネル

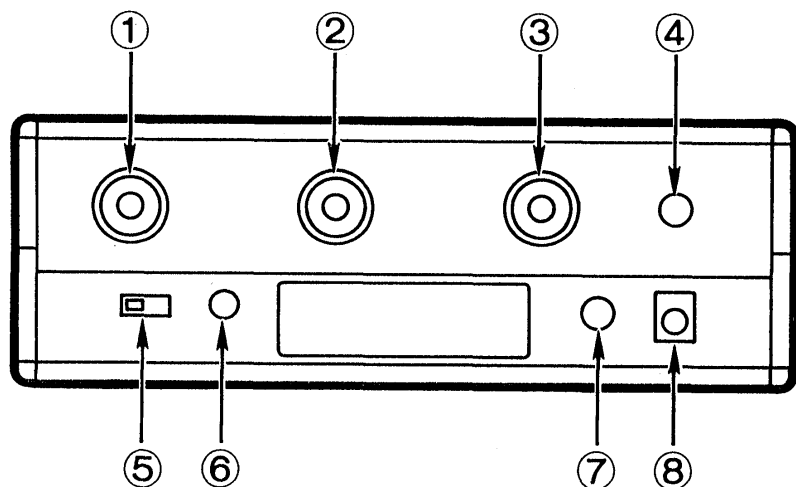


- ①ディスプレイ : 本機の動作状態を表示したり、時計表示を行います。  
バックライト(照明)の明るさを2段階に切り替えることができます。
- ②キーボード : 周波数の設定〔選局操作〕ができます。  
メモリーチャンネル(M-CH)の番号を設定することができます。  
各種のファンクション(機能)操作を行うことができます。

- ③電源スイッチ  
音量ツマミ : 押すことにより、本機の電源がオン・オフします。  
ツマミを回すことにより、音量調整ができます。
- ④ダイヤル : 周波数の可変ができます。  
メモリーチャンネル(M-CH)の呼び出しができます。
- ⑤SQUELCHツマミ  
(スケルチ) : 無信号時の雑音を消し、信号だけを受信するように調整するツマミです。  
あまり右に回しすぎると弱い信号を受信しにくくなります。  
また左に回しすぎると、信号を受信していないときは雑音が出ます。
- ⑥UP/DNスイッチ : ダイヤルと同じ働きがあります。  
押し続けると連続動作となります。
- ⑦操作モードキー  
[FR/M] : 周波数を設定するためのモードと、メモリーを呼び出すモードの切り換えを行うキーです。



## 2.後面部



### ①アンテナコネクタ[50~905MHz帯]

：50~905MHz帯を受信するアンテナ端子です。  
整合インピーダンスは50Ωで、N型コネクタを使用しています。  
付属のロッドアンテナが使用できます。

### ②アンテナコネクタ[0.5~50MHz帯]

：0.5~50MHz帯を受信するアンテナ端子です。  
整合インピーダンスは50Ωで、M型コネクタを使用しています。  
ローバンドでは、付属のワイヤーアンテナが効果的です。

### ③アンテナコネクタ[905~1800MHz帯]

：905~1800MHz帯を受信するアンテナ端子です。  
整合インピーダンスは50Ωで、N型コネクタを使用しています。  
付属のロッドアンテナが使用できます。

④アンテナセレクター：アンテナ切り換え用の信号を出力する端子です。

⑤時計表示切り換えスイッチ：本機を電源OFFにしているとき、時計表示にすることができます。  
OFF：時計表示しない  
ON：電源を切ると時計表示になる  
LAMP：時計表示のバックライト

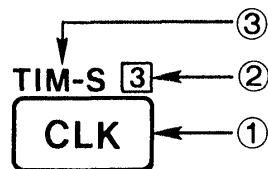
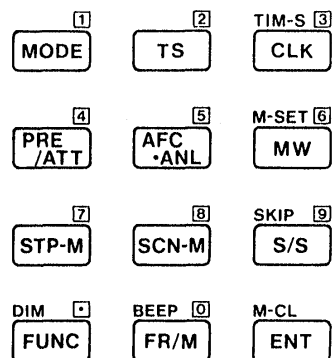
⑥コントラスト：本機のディスプレイの濃淡が調整でき、屋内と車載時等の見やすさが調整できます。

⑦外部スピーカー端子：別売のスピーカーを接続する端子です。

⑧電源接続端子 [DC13.8V]：電源を接続する端子です。  
2ページをよくお読みください。

アンテナについての詳しい説明は29ページをご覧ください。

### 3. キーボード



- ① キーボードを直接押すと、白文字の機能となる
- ② [ENT] キーを押してから、キーを押すと、周波数やメモリーチャンネルの置数となる
- ③ [FUNC] キーを押してから、キーを押すと、青文字の機能となる。(青文字のないキーは無効)

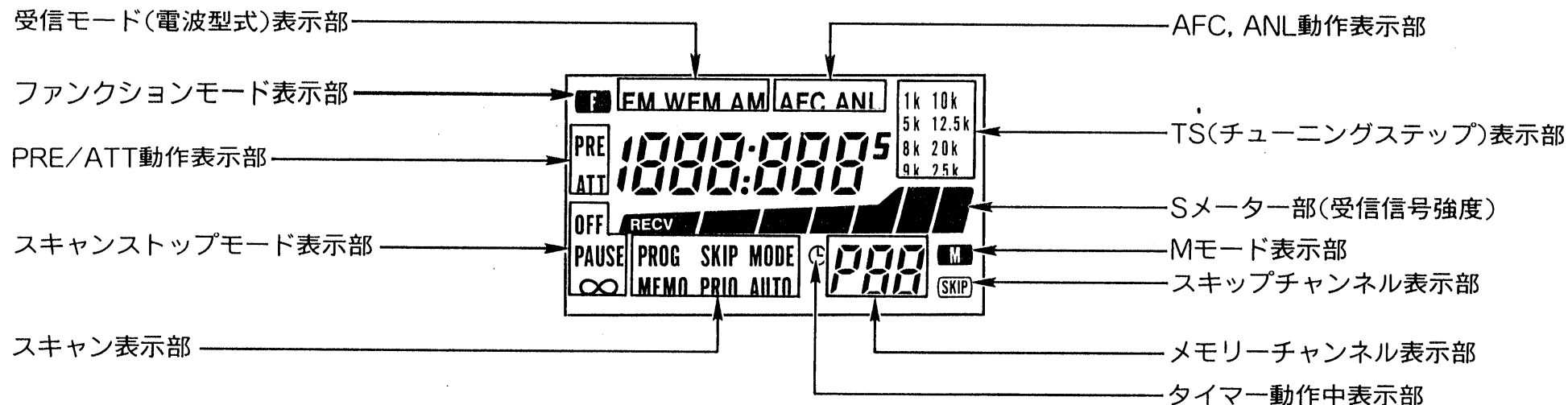
※ [FUNC] キーを押したときは、5秒以内に次のキーを押してください。5秒以上になると元にもどります。

#### ■ キーボードの機能概略

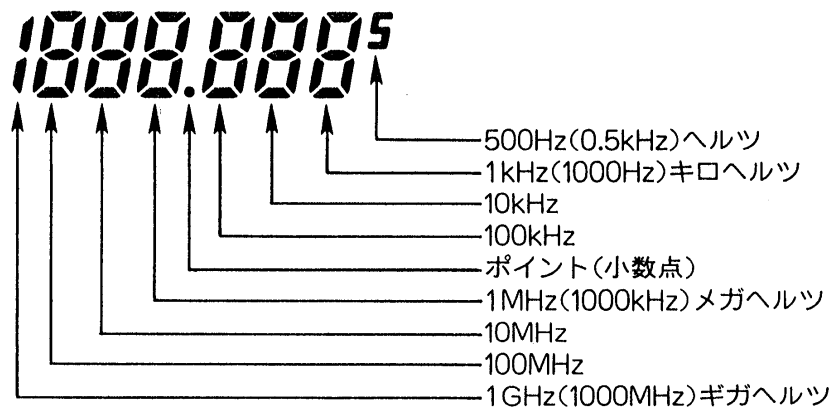
	直接キーインしたときの働き	参照ページ	[FUNC]のあとに押したとき	参照ページ
[MODE]	MODE(電波型式)を設定する	P11	無効	
[TS]	TS(チューニングステップ)を設定する	P10	無効	
[TIM-S/CLK]	CLK(時計)表示にする	P7	時計、タイマーセットモードにする	P22
[PRE/ATT]	PRE(プリアンプ)/ATT(アッテネーター)機能を動作させる	P27	無効	
[AFC/ANL]	AFC(自動周波数調整)/ANL(自動雑音抑圧)機能を動作させる	P27	無効	
[M-SET/MW]	M-CHへの書き込みを行う	P13	表示内容の一時退避を行わせる	P13
[STP-M]	スキャンストップモードの変更	P15	無効	
[SCN-M]	スキャンの種類を選択する	P14	無効	
[SKIP/S/S]	スキャンのスタート/ストップを行う	P14	スキャン時のSKIP(スキップ)チャンネルを指定する	P20
[DIM/FUNC]	このキーのあとに続くキーの青色の機能を選択する	P6	ディスプレイ照明の明るさを切り換える(DIMMER)	P27
[BEEP/FR/M]	FR(周波数)セットモードとM-CH(メモリーチャンネル)セットモードを切り換える	P6	BEEP(ビーブ)音のON/OFFを切り換える	P27
[M-CL/ENT]	周波数またはM-CHの置数時、先頭と末尾に入力する	P9 P12	メモリークリア メモリーの内容を消去する	P21



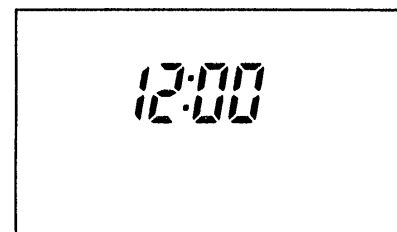
## 4.ディスプレイ



### ■周波数の表示と単位



### ■時計表示



本機には時計およびタイマー機能が付加されています。くわしくは22ページからご覧ください。

運用中(周波数表示)に[CLK]キーを押すことにより、時計表示となります。

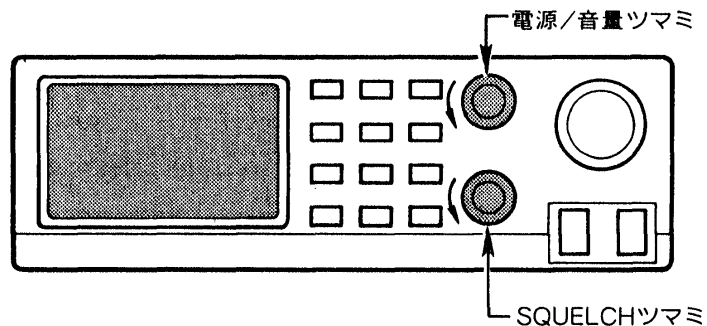
# 3

## 基本操作〔電源投入から選局までの簡単操作〕

### 1. 受信するための準備

#### ①電源を入れる前に

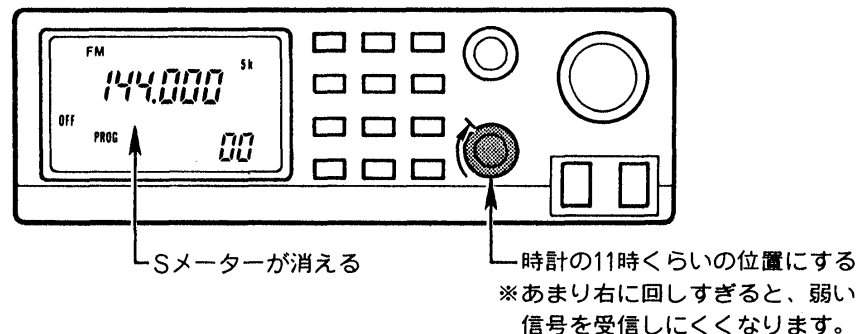
- ①アンテナをきちりと取り付けてください。
- ②電源およびスケルチつまみを左に回しきっておきます。



#### ③SQUELCH(スケルチ)の調整

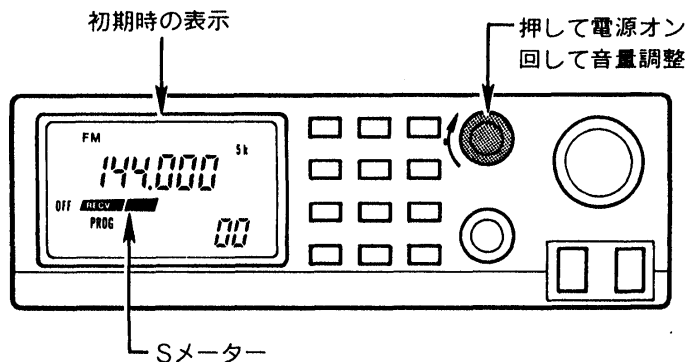
SQUELCHつまみを左に回しきっていると、信号を受信していないときは、常に“ザー”という雑音だけが聞えます。

- つまみをゆっくりと右に回して行き、“ザー”という雑音が消え、Sメーターが消える位置にセットしてください。



#### ②電源オンと音量調整

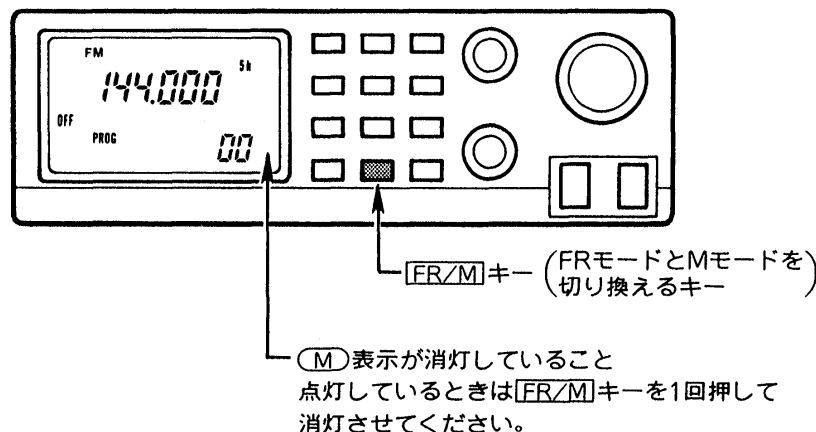
- ①PUSH-ON/VOLを押して電源を入れます。
- ②PUSH-ON/VOLを右に回すことで、音量が大きくなります。信号音または雑音が聞えてきますので、適当な位置に合わせてください。



#### ④FR(周波数セット)モードの設定

周波数をセットするときは、FRモードでなければできません。

- Ⓜ表示が点灯していないことを確認してください。



## 2. キーボード選局のしかた

他の選局方法については10ページをご覧ください。

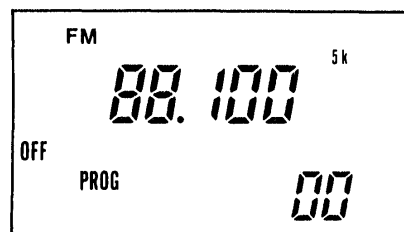
### ■受信したい周波数がわかっているとき

〔例〕88.1MHzのFM放送を受信するには

- (1)FRモードになっていることを確認します。(前ページ4項)
- (2)キーボードで次のように入力します。

**[ENT] [8] [8] [.] [1] [ENT]**

- 最初の**[ENT]**で周波数表示部がブランクになります。
- 数字は上位桁から入力します。
- 1MHz桁と100kHz桁の間に**[.]**(ポイント)キーを入力します。
- 周波数の下位桁の0(ゼロ)は省略できます。
- 数字の入力が終われば再度**[ENT]**を入力します。



周波数の入力が完了すると、左のように表示されます。

注1.最初の**[ENT]**を押してから、約5秒間入力しなかった場合は元の周波数表示に戻ってしまいます。

注2.入力途中でまちがえたときは、**[ENT]**を押し、再度**[ENT]**から入力してください。

### ■周波数の入力例

キーボードで選局できる周波数は、0.1~1856MHzの範囲です。範囲外の周波数を入力したとき、表示はされますが最後の**[ENT]**を押したときに、元の周波数に戻ります。

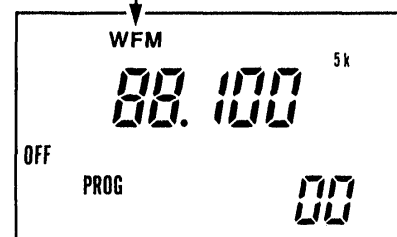
144.000MHz → **[ENT] [1] [4] [4] [ENT]**  
0.160 → **[ENT] [0] [.] [1] [6] [ENT]**  
7.001 → **[ENT] [7] [.] [0] [0] [1] [ENT]**  
1025.000 → **[ENT] [1] [0] [2] [5] [ENT]**  
2.062<sup>5</sup> → **[ENT] [2] [.] [0] [6] [2] [.] [\*] [ENT]**

※0.5kHz(500Hz)をセットするときは、**[.]**を入力し、**[5]~[9]**のどのキーでもよい。また、0.5kHzを消したいときは、**[.]**を入力し**[0]~[4]**のいずれかのキーを押す。

## 3. 受信MODE(電波型式)のセット方法

FM放送の場合、電波型式はW FMにします。

電波型式の表示



- [MODE]**キーを押すごとに電波型式のFM/W FM/AMが切り換わります。W FMの位置にセットしてください。(FM放送の場合)

電波型式については11ページをご覧ください。

# 4 選局のしかた

## 1. 選局方法の種類

選局にはいろいろな方法があり、周波数を直接可変させるものとあらかじめ記憶させておいたメモリーを使用する方法があります。

### ① 周波数を可変させて選局する方法

(1) キーボード選局	受信したい周波数がわかっているときに便利です。	☞ P9
(2) ダイアル選局	表示周波数の付近の周波数に移るときや、正確な同調を得るときに使用します。	☞ P11 4項
(3) UP(アップ), DN(ダウン)スイッチの選局	UPまたはDNスイッチを押して周波数を可変します。 押し続けると、連続動作になります。	☞ P11 4項
(4) 周波数スキャン(プログラムスキャン)	自動的に周波数を切り換えながら電波の出ているところをさがしだす機能があります。	☞ P16

### ② メモリー選局

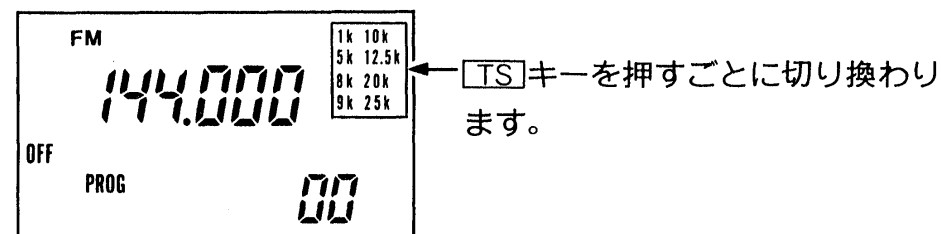
あらかじめ目的とする周波数や電波型式を、メモリーチャンネルに記憶させておき、必要なときにそのメモリーを呼び出して受信を行う方法です。

メモリーについては12ページからご覧ください。

## 2. チューニングステップの設定のしかた

周波数をダイヤルまたはUP/DNスイッチで可変するとき、可変させる最小の幅をチューニングステップといいます。

チューニングステップは、周波数帯や電波型式などで、あらかじめ決められている場合と、慣習的に設定しているものなどがあります。受信する周波数帯によりそれぞれ選択してください。



※本機では、初期時のTSを0.1~905(未満)MHzは5kHz、905MHz以上は20kHzステップに設定しています。

※周波数帯によっては、設定できないTSもあります。

### ■ チューニングの微調整

電波には、ある程度の幅(占有周波数帯幅)があります。この幅の範囲に入れば電波をキャッチしますが、チューニングステップを大きいものにしておきますと、ダイヤルでは、中心周波数を捕えられない場合があります。

中心周波数に合わせるために、チューニングステップをできるだけ小さいもの(1または5kHzステップ)にし、Sメーターが最も大きく振れるところにチューニングしてください。

### 3.電波型式について

電波には、いろいろな性質があり、運用する目的、伝播距離、周波数帯などにより、電波の型式を決定しています。本機では、FM、W FM、AMの3種が受信できます。

電波型式	おもな周波数帯	おもな通信用途
AM	0.1~29(MHz) 108~137	ラジオ放送、中波/短波 エアバンド
FM	29~76 137~170 225~470 770~1000 1000~1300 1300~1800	アマチュア無線 アマチュア無線(マリン) アマチュア無線、業務用無線 パーソナル無線、陸上移動無線 アマチュア無線 船舶電話、レーダー、気象衛星
W FM (ワイドエフエム)	76~230 470~770	ラジオ・テレビ(VHF音声) テレビ(UHF音声)

※電波型式は、周波数帯や通信する局の発射電波により異なりますから、受信する前にセットしてください。

#### ■電波型式の設定のしかた

[MODE]キーを押します。1回押すごとに切り換わります。

#### ■電波型式をまちがえているときのおもは症状

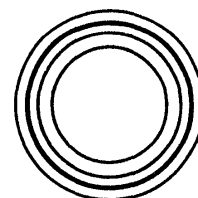
- 受信音が歪(ひず)む。
- 受信音が途切れる。
- 雑音だけしか聞えない。
- 雑音の中に小さく音声が見える。
- Sメータの振れが小さかったり、不安定に振れる。

### 4.ダイヤル、UP/DNスイッチで選局する方法

表示周波数が目的局の周波数の近くにある場合や、その付近にある周波数(放送局)をさがしたいときに、ダイヤルまたはUP/DNスイッチで選局すると便利です。

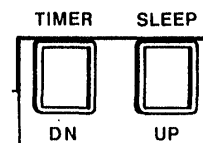
〔例〕アマチュア無線の435.000MHz付近を受信するには

- ① [FR/M]キーを押し、FRモードにします。  
(ディスプレイに[M]が点灯している場合)
- ② キーボードで435.000MHzをセットします。  
[ENT] 4 3 5 [ENT]
- ③ [MODE]キーを押し、電波型式をFMにします。
- ④ [TS]キーを押し、チューニングステップを20kHzにセットします。  
以上でアマチュア無線435MHz帯の受信準備が完了です。
- ⑤ ダイヤルを回すか、UP/DNスイッチを押します。  
周波数が20kHzステップで変化し、435MHz付近に出ている通信局をさがすことができます。



ダイヤルとUP/DNスイッチは同じ働きをします。

ただし、UP/DNスイッチは押し続けると連続動作します。



# 5 メモリーチャンネルについて

## 1. メモリーチャンネルとは

周波数や電波型式などを記憶させることができ、これを呼び出すだけで、目的局の受信がすばやくできます。

メモリーチャンネル(以下、M-CHと略します。)は、次のように0~99CHあり、スキャン(☞P14)の周波数範囲を設定するためのM-CHが20CHあります。

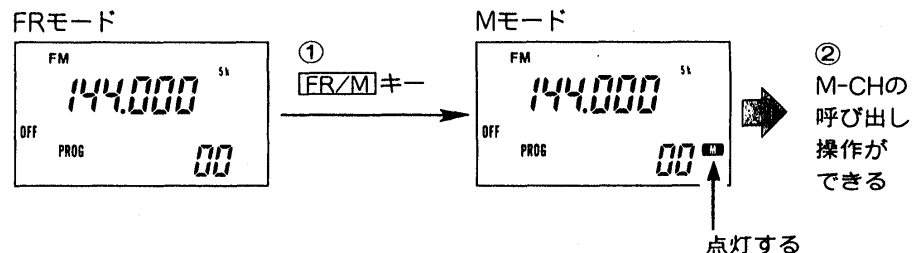
M-CHは、スキャンのときにもいろいろな使いかたができます。

### ■M-CHの内訳

M-CH	初期時の内容	主な用途
0 ┆ 09	144.000MHz	<ul style="list-style-type: none"> <li>●通常のメモリーチャンネル</li> <li>●プログラムスキャン時のスキップ指定エリア(☞P16)</li> </ul>
10 ┆ 79	ブランク	<ul style="list-style-type: none"> <li>●通常のメモリーチャンネル</li> <li>●プログラムスキャン時のスキップ指定エリア(☞P17)</li> </ul>
80 ┆ 99	ブランク	<ul style="list-style-type: none"> <li>●通常のメモリーチャンネル</li> <li>●オートメモリーライトスキャン時の周波数自動書き込みエリア(☞P18)</li> </ul>
P0A ┆ P9A	144.000MHz	<ul style="list-style-type: none"> <li>●プログラムスキャン時の周波数範囲設定用メモリー(☞P16)</li> <li>●通常メモリーとして使用可</li> </ul>
P0B ┆ P9B	146.000MHz	<ul style="list-style-type: none"> <li>●プログラムスキャン時の周波数範囲設定用メモリー(☞P16)</li> <li>●通常メモリーとして使用可</li> </ul>
P-P	144.000MHz	<ul style="list-style-type: none"> <li>●プライオリティスキャン時の周波数メモリー用(☞P19)</li> <li>●通常メモリーとして使用可</li> </ul>

## 2. M-CHの呼び出しかた

M-CHを切り換える(呼び出す)ときは、Mモードにします。



- ① **FR/M** キーを押し、Mモードにします。
- ② 呼び出し操作は、周波数選局の操作と同様です。

● キーボードで行う

**ENT**   **ENT** 00CH~99CHまでの  
└─数字2桁 呼び出しができます。

※プログラムスキャン用のP0A~P9B, P-P CHは、キーボードで呼び出すことはできません。

● ダイヤルで行う

ダイヤルを回して、M-CHを切り換えます。  
すべてのM-CHを呼び出すことができます。

● UP/DNスイッチで行う

ダイヤルと同じ働きをします。  
押し続けると連続動作となります。

ご注意

FRモードからMモードに切り換えたとき、周波数表示はFRモードのままです。M-CHを切り換えることで表示が変わります。

### 3.M-CHへ記憶させる方法

M-CHには、周波数、電波型式、TSなどを記憶させることができます。

① [FR/M]キーを押し、Mモードにします。

② 記憶させたいM-CHに切り換えます。  
(2項M-CHの呼び出し方を参照)

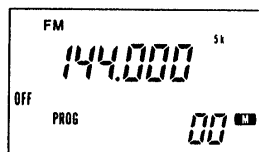
③ [FR/M]キーを押し、いったんFRモードに戻します。

④ 記憶させたい周波数をセットします。  
電波型式、TSも必要であればセットしてください。

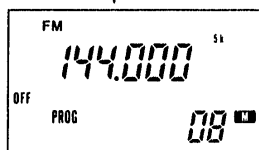
※周波数の設定方法(☞P9)  
電波型式の設定方法(☞P9)  
TSの設定方法(☞P10)

⑤ [MW]キーを1~2秒押してください。  
操作音(ピープ音)が“ピッピピ”と鳴り  
終わるまで押してください。  
これでM-CHへの記憶が完了です。

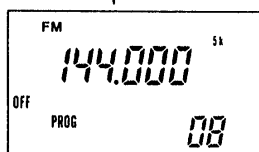
① Mモードにする



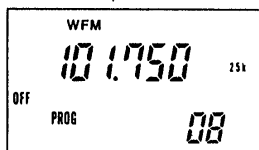
② M-CH切り換え



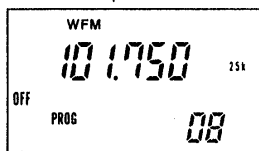
③ [FR/M]キー



④ 周波数セット



⑤ [MW]キーを1~2秒押す



### 4.受信している周波数をメモリーさせたいときに[M-SET]の使いかた

いろいろな通信を受信しているときに、この周波数を忘れないようにメモリーしたいときがあります。

[MW]キーを1~2秒押すことで、表示されているM-CHに記憶しますが、そのM-CHの前の内容が消されてしまいます。

受信しながらM-CHの空きチャンネルを呼び出し、そのM-CHに書き込むことができます。

① [FR/M]キーを押し、Mモードにします。  
※Mモードのときはこの操作はいらない

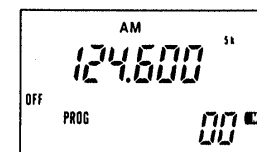
② [FUNC]キーを押し、[MW](M-SET)キーを押し続けます。  
※両方のキーを押し続けてもよい

③ [MW]キーを押し続けながら、ダイヤルを回します。  
この操作でM-CHが順次切り換わりますので、空白(周波数が記憶されていない)CHか、前の内容を消してもよいM-CHをセットしてください。

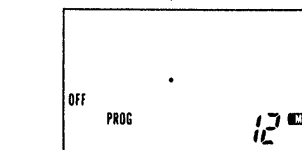
④ キーを離すと、受信していた周波数が表示されます。

⑤ [MW]キーを1~2秒押すことにより、書き込みが完了です。

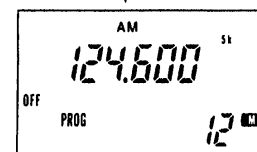
① Mモードにする



② [FUNC]と[MW]を押しながらダイヤルを回し、M-CHを切り換える



④ [FUNC]と[MW]をいったん離す



⑤ [MW]を“ピッピピ”が鳴るまで押す

# 6

## 各種のスキャンとその操作

### 1. スキャンについて〔いろいろな電波をさがし出すために〕

#### A スキャンとは

スキャンとは、周波数またはM-CHを自動的にアップダウンさせ、信号の出ているところをさがし出す機能です。

#### B スキャンの種類

スキャンには大きく分けて、周波数を順次切り換えながら行うプログラムスキャンと、M-CHを切り換えながら行うメモリスキャンがあります。

なお、スキャン時に必要のない周波数またはM-CHをスキップさせるスキップスキャンや、電波型式別に行うモードスキャンなどがあります。

#### C スキャンのスタート・ストップ操作

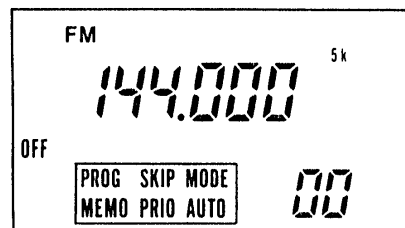
※スキャンを行うときは、必ずSQUELCHツマミを最良の位置にセットしておきます。

スキャンの種類	ディスプレイの表 示	スタート操作	ストップ操作	スキャンに必要な設定準備	参 照 ページ
プログラムスキャン	PROG	<input type="checkbox"/> [S/S]キーを押し、 <input type="checkbox"/> [0]~ <input type="checkbox"/> [9]キーを押す。  <input type="checkbox"/> [0]~ <input type="checkbox"/> [9]はスキャン グループ指定	<input type="checkbox"/> [S/S]キーを 押す。  ※ストップとは スキャンを解 除することで 一時停止では ない。	スキャンを行う周波数範囲を設定しておく。 この範囲は10グループに分けて設定できる。	☞P16
プログラムスキップ スキャン	PROG SKIP			プログラムスキャン時に、スキャンに必要なのない周波数 にスキップ指定を行っておく。	☞P17
オートメモリーライト スキャン	AUTO			プログラムスキャンに同じ。	☞P16
オートメモリーライト スキップスキャン	SKIP AUTO			プログラムスキップスキャンに同じ。	☞P17
プライオリティスキャン	PRIO	<input type="checkbox"/> [S/S]キーを押す		プライオリティ用周波数メモリー(P-P CH)にメモリー させておく。	☞P19
メモリスキャン	MEMO			スキャンしたい周波数をあらかじめM-CHに記憶させて おく。	☞P20
メモリスキャン スキップ スキャン	SKIP MEMO			メモリスキャン時のM-CHの中から、スキャンに不 必要なCHにスキップ指定を行っておく。	☞P20
モードスキャン	MODE			同一の電波型式が記憶されたM-CHのスキャンで、2CH 以上に同一電波型式が必要。	☞P21
モードスキップ スキャン	SKIP MODE			メモリスキャンスキップスキャンに同じ	☞P21

※スキャン中にダイヤルを回すと、スキャンは解除されます。(プライオリティは除く)



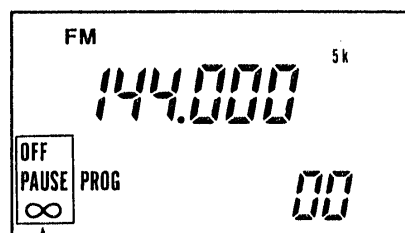
## D スキャンの種類を選択するには



スキャンの種類表示

- **[SCN-M]** キーを1回押すごとにスキャンの種類が切り換わります。  
初期時はPROGが表示される。

## E スキャンストップモードの選択



スキャンストップモード表示部

- **[STP-M]** キーを1回押すごとにスキャンストップモードが切り換わります。  
初期時はOFFが表示される。

## ■ スキャンストップモードとは

スキャン中に信号を受信すると、スキャンが一時停止します。このときのスキャン再スタートの条件が次の中から選択することができます。

スキャンする周波数帯や種類により使い分けてください。

- OFF : 受信信号がなくなるまで停止を続ける。  
受信信号がなくなると、約2秒後に再スタートする。
- PAUSE : 受信信号が続いていても、約5秒後に再スタートする。
- ∞ : 受信した周波数でスキャンを解除してしまう。

## F スキップスキャンについて

各種のスキャン(プライオリティを除く)には、スキャンに不要な周波数またはM-CHに、スキップ指定を行うことができます。スキップ指定を行ったのちに、それぞれのスタート操作でスキップスキャンができます。

また、スキップ指定されている周波数やM-CHは、各種のスキャンに共通していますから、16ページからの操作をよくお読みになり、効率のよいスキャンをご使用ください。

## G スキャン中にこんな操作ができる

- スキャン中に電波型式やTSが変更できます。
- スキャン中にスキャンストップモードが変更できます。
- 信号受信で一時停止したときに、受信状態が良くない場合は **[PRE/ATT]** キーや **[AFC/ANL]** キーが有効です。  
(PRE/ATT, AFC/ANLについてはP27参照)
- スキャン中UPスイッチを押すとアップスキャン、DNスイッチを押すとダウンスキャンになります。
- スキャン中にダイヤルを回すと、スキャンは解除されます。

## 2. プログラムスキャンの使いかた

プログラムスキャンは、あらかじめ設定した周波数範囲（グループ）の中で、周波数を自動的に切り換えながら、信号の出ている周波数（通信局）をさがし出すスキャンです。

このスキャンは0.1～1856MHzを、任意の周波数帯別に10グループを設定することができます。

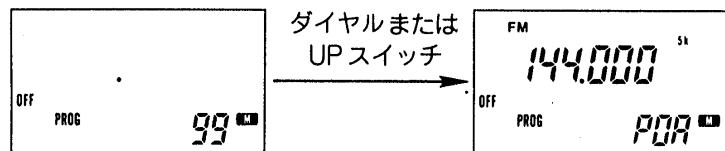
### A 10グループの周波数帯を設定するには

1つのグループごとに、スキャンさせたい周波数帯の上限および下限周波数を記憶させるAとBのメモリーがあります。

グループ番号	Aメモリー	Bメモリー
0	P0a	P0b
1	P1a	P1b
2	P2a	P2b
3		
9	P9a	P9b

●周波数範囲を設定するメモリーAおよびBは、通常のメモリーの99CHの次から始まります。

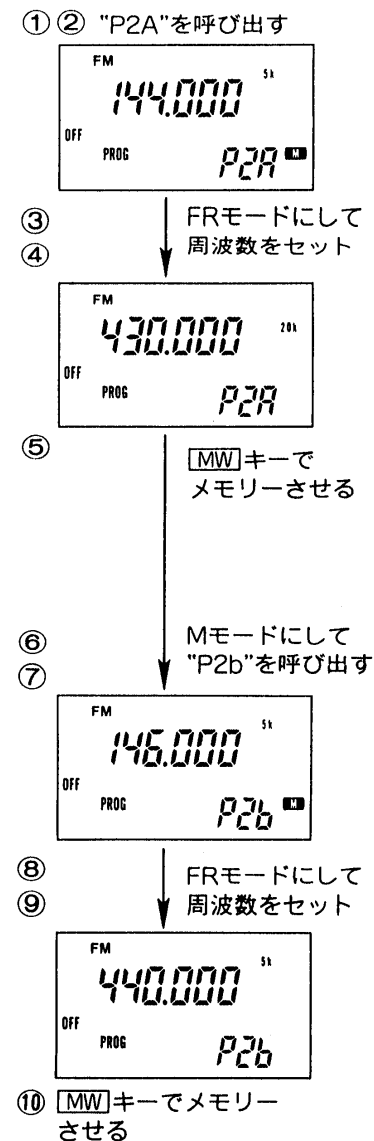
Mモードにして、ダイヤルまたはUP/DNスイッチで呼び出します。



### [例] グループ2に430～440MHzをセットする (アマチュア無線UHF周波数帯)

- ① [FR/M]キーでMモードにします。
- ② ダイヤルまたはUP/DNスイッチで右図のように“P2a”チャンネルを呼び出します。
- ③ [FR/M]キーでFRモードにします。
- ④ 下限周波数430.000MHzをセットしてください。  
TSを20kHzにセットします。  
電波型式をFMにセットします。
- ⑤ [MW]キーを1～2秒押し、セットした内容を“P2a”に記憶させます。
- ⑥ [FR/M]キーでMモードにします。
- ⑦ ダイヤルまたはUPスイッチを1回押し“P2b”チャンネルを呼び出します。
- ⑧ [FR/M]キーでFRモードにします。
- ⑨ 上限周波数440.000MHzをセットしてください。
- ⑩ [MW]キーを1～2秒押し“P2b”に記憶させます。

以上で1つのグループの周波数範囲が設定できます。



## B プログラムスキンのスタート操作

左記の例題のようにして、0~9の10グループに、スキャンさせたい周波数帯を設定しておきます。

※10グループすべてに設定する必要はありません。

① [SCN-M]キーを押し、“PROG”をセットします。

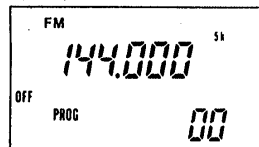
② [S/S]キーを押します。

右図のように“P-0”が表示されスキャンするグループ番号の入力を待ちます。

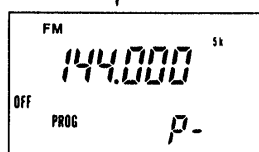
③ スキャンしたいグループ番号をキーボード0~9を押します。  
左記の例では2を押します。  
“P-2”が表示され、グループ2のスキャンがスタートします。

④ スキャンをストップ(解除)させるときは、[S/S]キーを押してください。

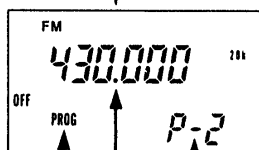
① “PROG”を選択



② [S/S]を押す



③ 0~9キーを押す  
例題では2キー



スキャンスタートで点滅

## 3. プログラムスキップスキンの使いかた

スキャンする周波数帯により、雑音だけが聞こえたり、受信したくない周波数があります。こんなときにプログラムスキップスキャンを使用することで、その周波数にスキップ登録ができ、次回からのスキャンでは、その周波数を無視します。

### ■スキップする周波数の登録のしかた

① [SCN-M]キーを押し、“PROG”“SKIP”を選択します。

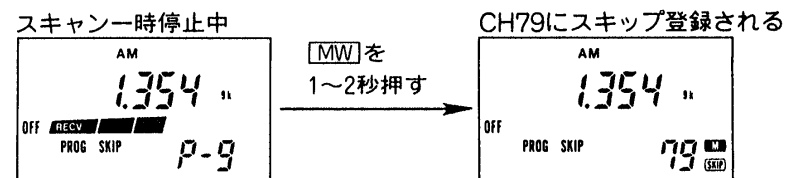
② [S/S]+0~9を押す、スキャンをスタートさせます。

③ 信号を受信すると、スキャンが一時停止します。

この周波数をスキップ登録する場合は、

[MW]キーを1~2秒(ピッピピ)押してください。

この操作により、スキップする周波数としてM-CHに自動的に書き込まれます。(M-CHは79~0CHの空きチャンネル)



④ 書き込みが終ると、自動的にスキャンが再スタートします。

⑤ 他の周波数でも登録する場合は、③の操作を行います。

以上のスキップ登録操作を行ったのちに、プログラムスキップスキャンを行いますと、その周波数をスキャンしません。

### ■スキップ登録の取り消しかた

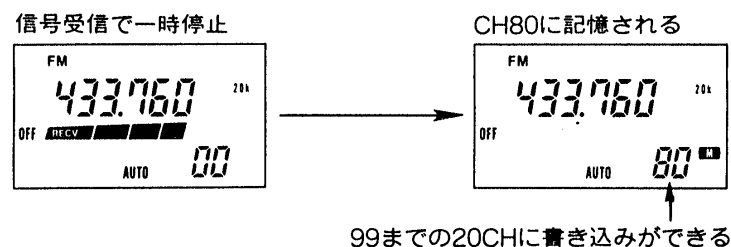
スキップ登録されているM-CHを呼び出し、“SKIP”表示を消すことで、その周波数が再度スキャンに参加します。

“SKIP”の取り消しかたは20ページをご覧ください。

## 4. オートメモリーライトスキャン

スキャン中にキャッチした信号(周波数)を忘れないように、また次回のスキャンで聞きたいときなど、スキャンしながらその周波数を記憶させることができます。

- ① **[SCN-M]**キーを押して、“AUTO”を選択します。
- ② **[S/S]+[0]~[9]**を押し、スキャンをスタートさせます。
- ③ 信号を受信すると、一時停止し、CH80にその周波数が自動的に記憶されます。



停止するごとにCH80~CH99まで自動的に記憶されます。  
CH99になるとスキャンが解除されます。

記憶させた周波数を聞きたいときは、メモリースキャンを行うかそのM-CHを呼び出します。

※再度、オートメモリーライトスキャンを行うと、前回記憶した内容はすべて自動的にクリアされ、新しい周波数が記憶されます。

## 5. オートメモリーライトスキップスキャン

このスキャンは、プログラムスキップスキャンとオートメモリーライトスキャンの複合型です。

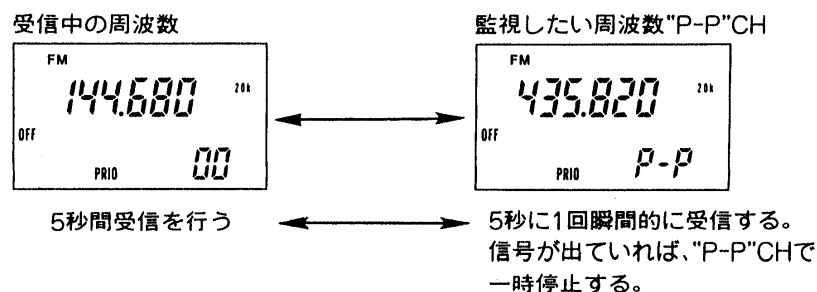
- ① **[SCN-M]**キーを押して、“AUTO”“SKIP”を選択します。
- ② **[S/S]+[0]~[9]**を押し、スキャンをスタートさせます。

以下、4項オートメモリーライトスキャンと同じです。

- オートメモリーライトスキップスキャン中に、不要な周波数があれば、スキップ登録ができます。  
プログラムスキップスキャンと同じ操作です。

## 6. プライオリティスキャン

表示の周波数を受信しながら、“P-P”CH(プライオリティチャンネル)にセットした周波数を、一定周期で監視(受信)するスキャンです。



プライオリティスキャンを行う場合は、あらかじめ“P-P”CHにスキャンしたい周波数をセットしておきます。

### A “P-P”CHに記憶させる方法

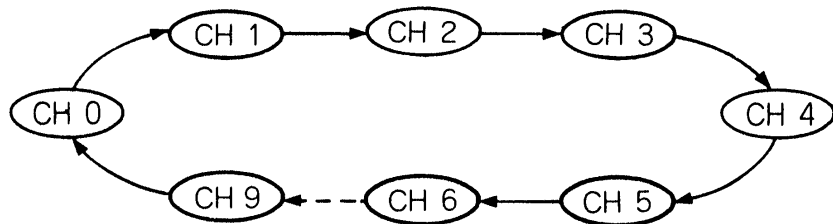
- ① Mモードにして、ダイヤルまたはUP/DNスイッチにより“P-P”CHを呼び出します。
  - ② FRモードにします。
  - ③ 周波数、電波型式などをセットします。
  - ④ **[MW]**キーを1~2秒押します。
- ②~④の操作は、M-CHに記憶させる操作と同じです。

### B プライオリティスキャンのスタート/ストップ

- ① **[SCN-M]**キーを押して、“PRIO”を選択します。
- ② **[S/S]**キーを押すと、“PRIO”が点滅し、プライオリティスキャンがスタートします。  
※表示が“P-P”CHおよび“P0A~P9B”CHの場合はスタートしませんから、0~99CHをセットしてください。
- ③ 表示周波数を約5秒間受信したのち、“P-P”CHに自動的に切り換わり、その周波数に信号が出ていると、一時停止します。再スタートは他のスキャンと同様に、スキャンストップモードによります。  
“P-P”CHに信号がなければ、すぐに表示周波数に戻ります。
- ④ スキャンの解除は**[S/S]**スイッチを押してください。
  - プライオリティスキャン中に、M-CHを切り換えたり、周波数の変更ができます。

## 7. メモリースキャン

あらかじめスキャンさせたい周波数を、M-CHに記憶させておき、そのM-CHをスキャンさせる方法です。  
周波数が記憶されているすべてのM-CHをスキャンします。



### ■メモリースキャンのスタート/ストップ

- ① **[SCN-M]** キーを押して、“MEMO”を選択します。
- ② **[S/S]** キーを押すと、スキャンがスタートします。

スキャンはブランクCHを除いて、周波数が書き込まれているM-CHをすべて行います。

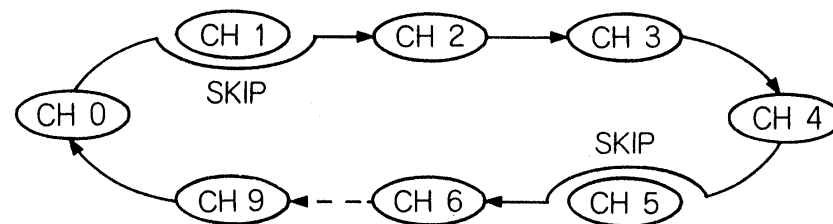
※前記、プログラムスキップスキャン時に記憶させたスキャンに必要な周波数は、M-CHの空きチャンネルに登録されているため、このM-CHもスキャンします。

次項のメモリースキップスキャンでこれを防ぎます。

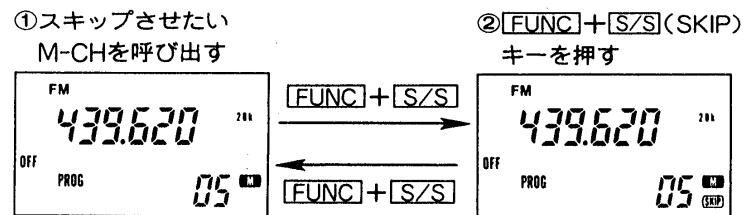
- ③ スキャンの解除は、**[S/S]** キーを押してください。

## 8. メモリースキップスキャン

メモリースキャンで、スキャンする必要のないM-CHに“SKIP”指定を行うことで、メモリースキャンの効率を良くします。また、プログラムスキップスキャンで登録した周波数もスキップします。



### A “SKIP”指定と取り消しかた



※取り消す場合も同じ操作を行う

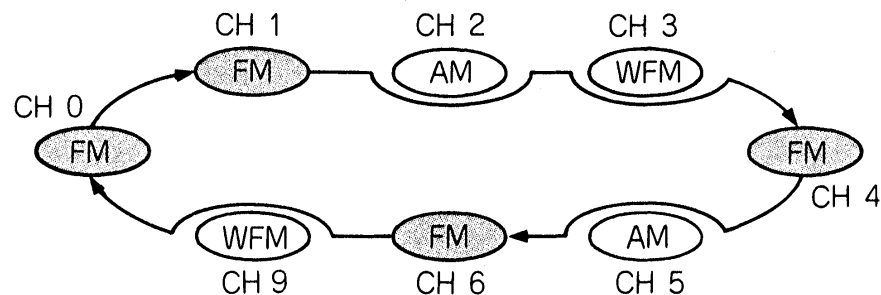
### B メモリースキップスキャンのスタート/ストップ

- ① **[SCN-M]** キーを押して、“MEMO”“SKIP”を選択します。
- ② **[S/S]** キーを押すとスキャンがスタートします。
- ③ 再度**[S/S]** キーを押すと、スキャンが解除されます。

## 9. モードスキャン

メモリスキャンの一種で、M-CHに記憶されている電波型式を判別し、同一のものだけをスキャンします。

同一モードが2CH以上あることが条件です。



### ■モードスキャンのスタート/ストップ

- ① [SCN-M] キーを押して、“MODE”を選択します。
- ② [MODE] キーを押して、スキャンしたい電波型式を指定します。
- ③ [S/S] キーを押すと、スキャンがスタートします。

スキャン中に [MODE] キーを押すと、電波型式の変更を行い、その電波型式でスキャンが継続します。

- ④ スキャンの解除は [S/S] キーを押します。

## 10. モードスキップスキャン

モードスキャンとメモリスキャンの複合型で、指定した電波型式の中で、M-CHに“SKIP”が指定されているものは、スキャンから除外されます。

例えば、左記のイラストの中でCH-4に“SKIP”指定していた場合は、FMモードでスキャンしてもCH-4はスキャンされません。

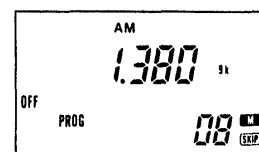
### ■モードスキップスキャンのスタート/ストップ

- ① [SCN-M] キーを押して、“MODE”“SKIP”を選択します。
- ② [MODE] キーを押して、スキャンしたい電波型式を指定します。
- ③ [S/S] キーを押すと、スキャンがスタートします。
- ④ 再度 [S/S] キーを押すと、スキャンが解除されます。

## 11. メモリーをクリア(消去)する方法

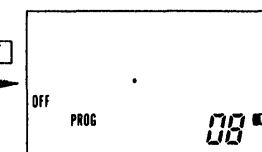
各種のスキャンで、スキップを指定するM-CHが多くなりすぎたり、必要がなくなったM-CHができたときなど、そのM-CHを、クリア(消去)することができます。

Mモードにして、消去したいM-CHを呼び出す



[FUNC] キーを押して、[ENT] (M-CL) キーを1~2秒押す

[FUNC] + [ENT]

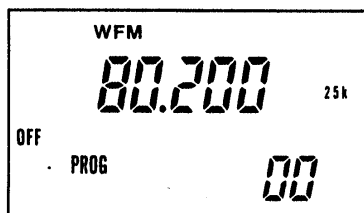


# 7

## 時計&タイマーについて

この機能は3種類のタイマーと時計(時刻表示)があります。

周波数表示



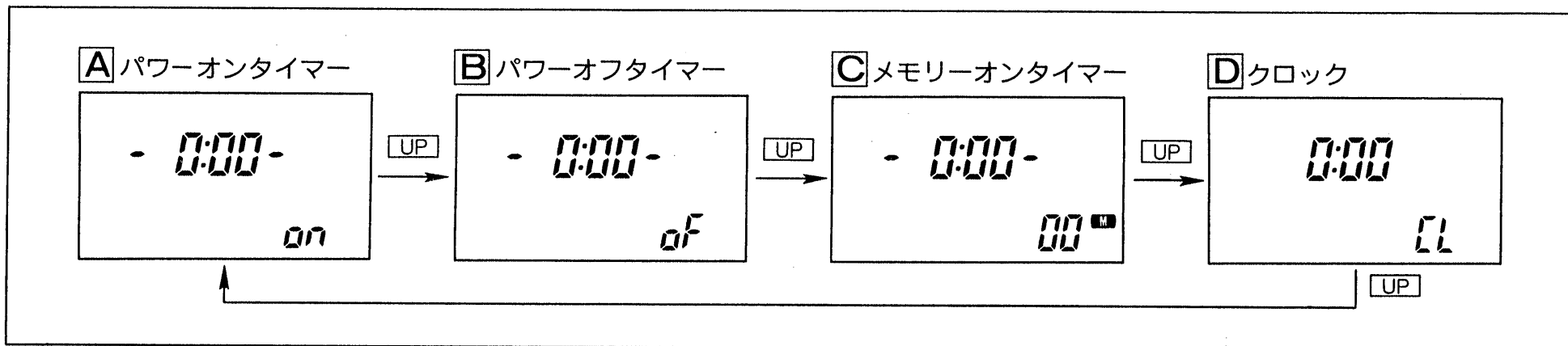
- ①時計およびタイマーセットモードにするには[FUNC]キーを押し、[CLK]キーを押してください。
- ②タイマー3種類およびクロックのセット表示を切り換えるのは、UP(TIMER)スイッチです。
- ③タイマー時刻のセット後、[ENT]キーを押すと周波数表示に戻ります。

時計・タイマーセットモード

[ENT]



[FUNC] + [CLK] キー



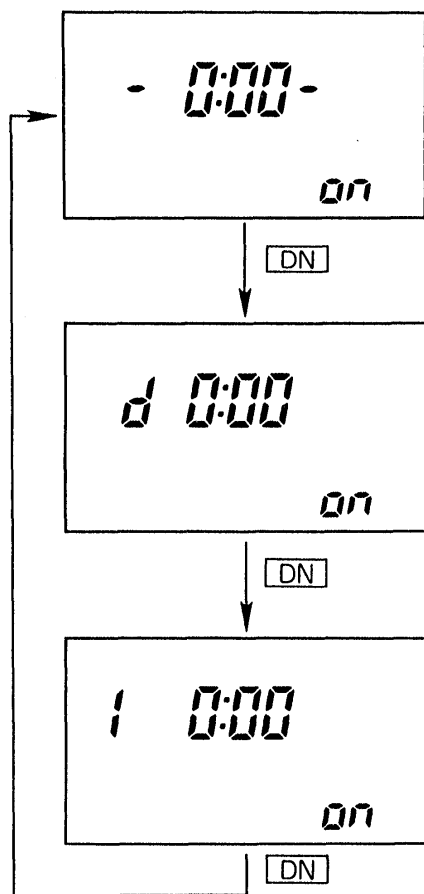
- A** パワーオンタイマー : セットした時刻に本機を受信状態にします。(タイマーON中は時計表示)
- B** パワーオフタイマー : セットした時刻に本機の電源を切ります。(タイマーON中は周波数表示)
- C** メモリーオンタイマー : セットした時刻に指定のM-CHに切り換わります。
- D** クロック : 時刻のセットを行います。
- E** スリープタイマー : 上記のタイマーとは別におやすみタイマー機能があります。(P26)



## ■ディレイタイマー/1回タイマーの切り換え

3種類のタイマーは、それぞれディレイ/1回かぎり/無効を次のようにして選択することができます。

DNスイッチを押すごとに切り換わります。



### 無効表示

この表示にしておくと、時刻のセットを行っていても、タイマーとして動作しません。必要のないタイマーは、この表示にしておきます。

### ディレイ表示

毎日、セットした時刻にタイマーが動作します。

### 1回タイマー表示

1回かぎりのタイマーとして働きます。

動作後は、無効表示に変わります。(時刻は継続)

## ■タイマー時刻のセット方法

タイマー時刻は数字キーで直接入力します。

時刻は24時間制ですから、必ず4桁で入力してください。

[時刻セット例]

0:30 → 0 0 3 0

1:00 → 0 1 0 0

5:05 → 0 5 0 5

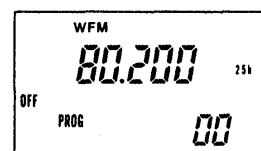
11:50 → 1 1 5 0

- 時刻がセットできれば[ENT]キーを押しますと、周波数表示に戻ります。

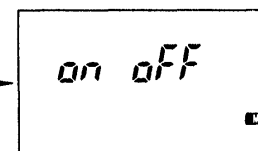
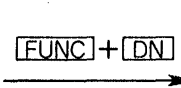
## ■タイマーをスタートさせるには

スタートさせるタイマーが、左図のディレイまたは1回タイマー表示であることを確かめてください。

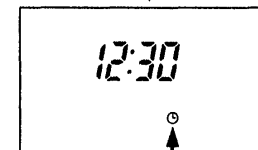
- ①[FUNC]キーを押し、DN(TIMER)スイッチを押します。



周波数表示にしておく



約2秒後

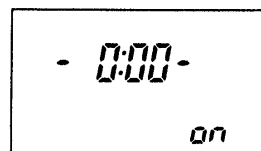


タイマー動作中マーク

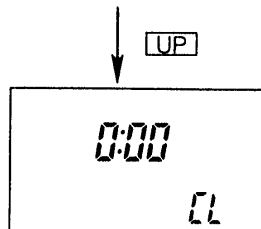
- ②タイマースタート時に、どのタイマーが有効かを約2秒間表示し、周波数表示または、時刻表示に切り換わります。

**A** パワーオンタイマーのセットと動作〔例：現在時刻を9:00に、パワーオンを10:30にセットするには〕

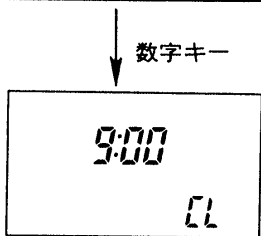
① **[FUNC]** + **[CLK]** キーを押し、タイマーセットモードにします。



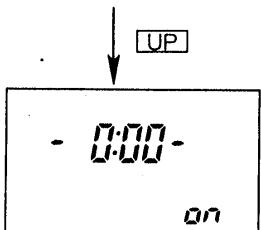
② UPスイッチを数回押し、クロック表示にします。



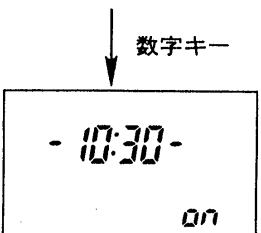
③ 数字キーで9:00をセットします。  
 ⑨ ⑨ ⑨ ⑨ と入力する。



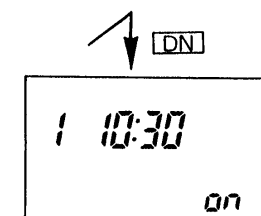
④ UPスイッチを押し、パワーオンタイマー表示にします。



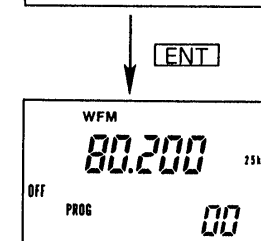
⑤ 数字キーで10:30をセットします。  
 ① ⑦ ③ ⑦ と入力する。



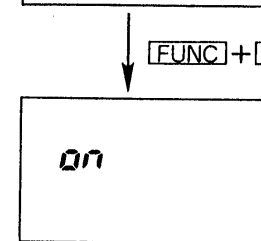
⑥ ディリリーか1回かぎりかをDNスイッチで選択します。  
 (例 1回かぎりの場合)



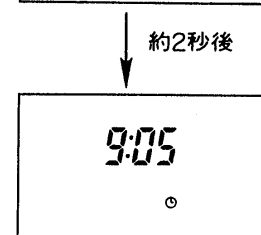
⑦ セットが完了すれば**[ENT]**キーを押し、周波数表示に戻します。



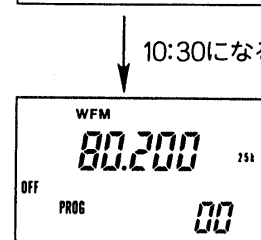
⑧ タイマーのスタート  
**[FUNC]** + **DN(TIMER)** を押します。  
 約2秒間右の表示になりパワーオンタイマーがスタートすることを表示します。



⑨ 約2秒後、ピープ音があり、表示は現在時刻とタイマー動作中マークになります。この表示になると、電源オフの状態ですから、通常の操作はできません。



⑩ タイマーオン時刻になると通常の運用状態にします。



## ■B パワーオフタイマーの動作

左記パワーオンタイマーのセット方法と同様に、パワーオフタイマー時刻をセットしてください。

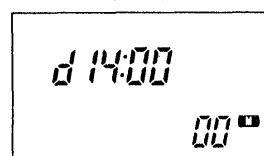
- ①UPスイッチを押し、パワーオフタイマーセット表示にします。
- ②DNスイッチでディリーか、1回かぎりかを選択します。
- ③数字キーでオフ時刻をセットします。
- ④[ENT]キーで周波数表示に戻します。
- ⑤[FUNC]+DN(TIMER)を押し、タイマーをスタートさせます。
- ⑥タイマー時刻になると、運用中(受信中)であっても、時計表示になり、以後通常の操作を受け付けません。

## ■C メモリーオンタイマーの動作

セット方法はAおよびBと同様ですから省略します。  
運用中にタイマー時刻になると、ビープ音(ピピッ)が5回鳴り、M-CHに切り換わります。

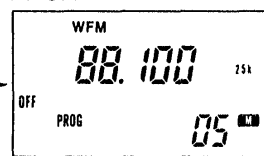
### ●M-CHの選択のしかた

メモリーオンタイマー  
セット表示にして



ダイヤルを回す

ダイヤルを回し、  
M-CHをセットする

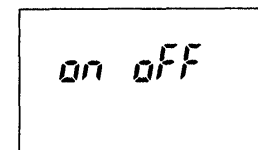


約2秒後タイマー表示になる

## ■タイマーを複合でセットすると

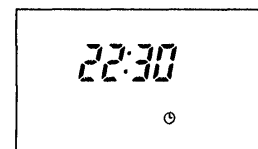
パワーオンタイマーとパワーオフタイマーの両方をセットしてスタートさせた場合

ディスプレイは右のような表示を約2秒行い、自動的にどちらのタイマーを先に働かせるかを、現在時刻と照合して判断します。

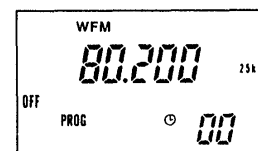


例：現在時刻 21:00、パワーオフタイマー 22:30  
パワーオンタイマー 6:30 にセットすると

22:30になると右の表示になり、本機の電源が切れた状態になります。



6:30(翌朝)になると電源がONし、タイマーセット前の状態になります。



## ■D 時計の合わせかた

現在時刻のセットは、クロック表示(CL)にして、数字キーで4桁入力してください。

- 最終桁を入力したときから、時計のカウントが始まります。  
(秒合せまで正確に行いたいとき)

## ■E スリープタイマーのセットと動作

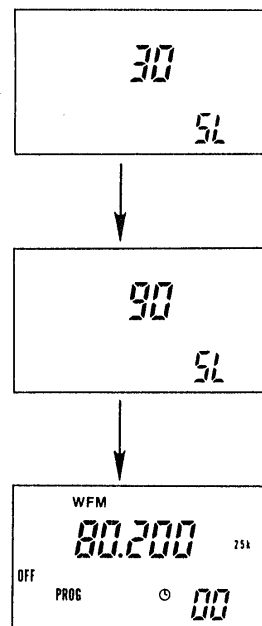
就寝時などに使用できるタイマーで、時間のセットを行わずに、30/60/90分の中から選択した時間後に本機の電源をOFF状態にするタイマーです。

### ■30→60→90分の選択方法

- ① [FUNC] キーを押し、
- ② DN(SLEEP)スイッチを押し  
続けながら
- ③ダイヤルを回します。

表示がダイヤルを回すごとに30/60/90と切り換わります。好みの時間を選んでください。

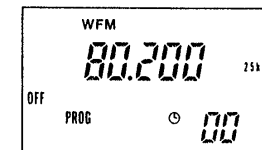
- ④DNスイッチを離すと、約2秒後に周波数表示に戻り、タイマー動作中マークが点灯してタイマーがスタートします。



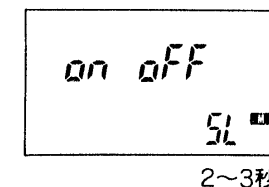
- ※スリープタイマーの時間選択を行っておきますと、通常時は [FUNC] + DNスイッチでこのタイマーがスタートします。
- ※スリープタイマーは、他のタイマーに関係なく働き、このタイマーが最優先となっています。

## ■各種タイマーの解除(中断)方法

- ①タイマーが動作中のときは、  
タイマー動作中マークが点灯  
しています。



- ② [FUNC] + [CLK] を押すと、タイ  
マー動作中のときは、どのタイ  
マーか動作中かを約2秒間  
表示します。  
セットしたタイマーは、すべ  
て表示されます。  
どのタイマーが動作中かがわ  
かっている場合、②の操作は  
不要です。



### スリープタイマー(SL)を解除するときは

[FUNC] + DNスイッチを押してください。

### その他3種類のタイマーを解除するときは

[FUNC] + UPスイッチを押してください。

- ※タイマー動作中マークが点灯しているときは、[FUNC] + [CLK] を  
押してもタイマーセット表示モードになりません。  
タイマーを解除してください。

### A PRE(プリアンプ)のON/OFF

弱い信号を増幅するためのプリアンプを内蔵しています。  
50~905MHz帯で受信中に、信号の弱いときに有効です。

[PRE/ATT]キーを押し、“PRE”を点灯させてください。

プリアンプのゲインは約15dBです。

なお、この情報は周波数と同様にメモリーすることができます。

### B ATT(アッテネーター)のON/OFF

強入力信号を減衰させるためのアッテネーターを内蔵しています。

強い信号を受信すると、受信音がわれたり、歪んだりしますので、

[PRE/ATT]キーを押し、“ATT”を点灯させてください。

アッテネーターON時は、約20dB減衰させます。

なお、この情報は周波数と同様にメモリーすることができます。

### C AFC(自動周波数制御)のON/OFF

高い周波数(50MHz以上)では、送信している局の周波数が徐々にズレる場合があります。

本機はFMモードのときのみ、この周波数ズレに対して自動的に送信している周波数に合わせる機能があります。

受信音がだんだん聞きにくくなる場合などに有効です。

[AFC/ANL]キーを押し、“AFC”を点灯させてください。

### D ANL(オートノイズリミッター)のON/OFF

雑音を抑圧するためのオートノイズリミッターを内蔵しています。

AMモードときのみ有効で、AM放送などを受信しているとき、雑音が発生している場合は[AFC/ANL]キーを押し“ANL”を点灯させてください。

### E ビープ音(操作音)のON/OFF

各種のキーを押したときに出る操作音を、ON/OFFすることができます。

[FUNC]+[FR/M](BEEP)を押すごとに、このビープ音の有効、無効を切り換えできます。

### F 5秒タイマーについて

- [FUNC]キーの5秒タイマー

[FUNC]キーを押したのち、5秒以内に次のキーが押されなかった場合は、[FUNC]を無効とし、元の状態に戻します。

- [ENT]キーの5秒タイマー

[ENT]キーが押されてから、5秒以内に次のキーが押されなかった場合は、元の状態(表示)に戻ります。

- その他、2ヶ以上のキーの操作で機能をスタートさせる場合など、5秒以上の間隔があると、元の状態に戻します。

### G DIM(ディマー)のセット

ディスプレイのバックライトを明るくしたり、暗くしたりすることができます。

[FUNC]+[FUNC](DIM)を押すごとに切り換わります。

■車へ取り付ける際は、安全運転に支障のない場所を選んで取り付けてください。

■直射日光のあたる場所や、ヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しいところはさけてください。

### ■取り付けかた

付属の車載ブラケットを利用し、ブラケットがしっかり固定される場所に取り付けます。

①取り付け場所が決定したら、正確なブラケットの取り付け穴を決定してください。

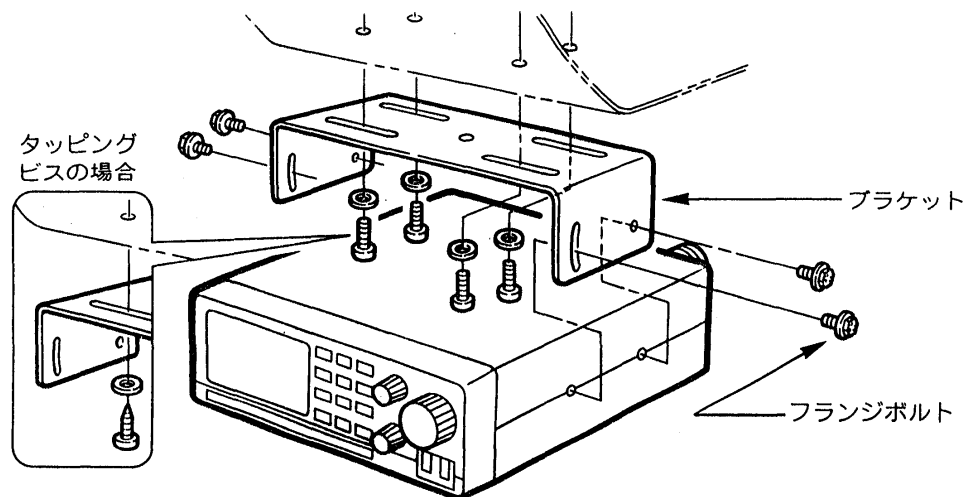
②取り付け用ビスは直径5mmですから、5.5~6mm程度(タッピングビス使用時は3mm)の穴をドリルで4箇所あけてください。

③図のように付属のビス、ワッシャー、ナットを使用し、振動などでブラケットがゆるまないように確実に固定してください。

④本機を設置しようとする場所に、固定するための支持物がない場合には、付属の取り付け補助金具を利用して固定してください。

⑤本機の取り付け角度は、フランジボルトで上下に約18°可変できます。ブラケットの溝で調整してください。

### ■取り付けかた

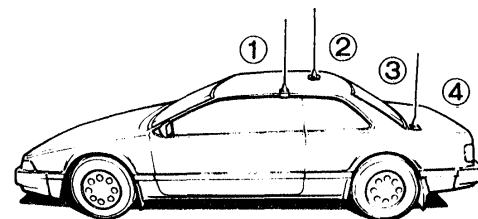


### ■車載用アンテナについて

車載時のアンテナは、市販されている専用アンテナが最適です。周波数帯や、車に取り付ける型式に各種ありますので、販売店にご相談ください。

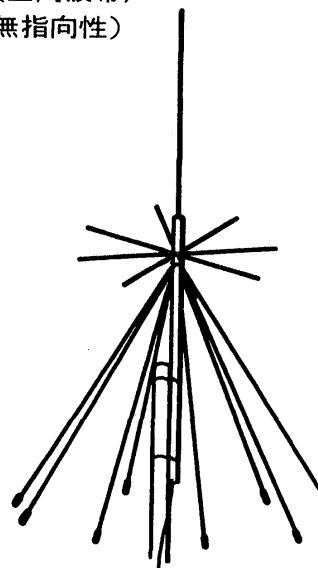
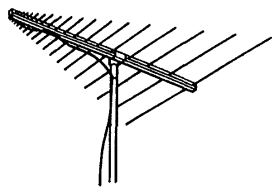
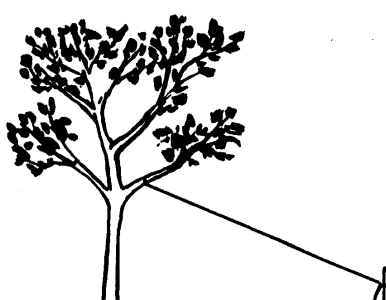
#### ●アンテナの取り付け位置と型式

- ① ルーフサイド型
- ② ルーフトップ型
- ③ トランクリッド型
- ④ バンパー型



## ■屋内運用時のアンテナについて

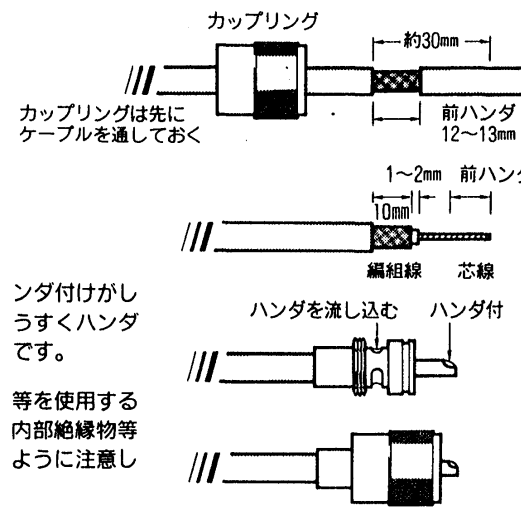
- 受信機の性能は、使用するアンテナによって大きく左右されます。付属のロッドアンテナでも、十分に感度は得られますが、周波数帯や使用場所により受信できない場合があります。
- 市販されているアンテナには、無指向性のアンテナと指向性のアンテナがありますので、受信する目的や、アンテナ設置スペースに合わせてお選びください。  
なお、アンテナの整合インピーダンスは50Ωです。
- 下記のイラストは、本機に適合するアンテナの例を示しましたのでご参照ください。

<p>●ディスコーンアンテナ (全周波帯/ 無指向性)</p>  <p>アイコムでは、オプションとしてAH-7000を販売しています。</p>	<p>●ログペリアンテナ (全周波数帯/指向性)</p> 
	<p>●ロングワイヤー (短波、中波帯用)</p>  <p>付属のワイヤーをご利用ください。</p>

## ■同軸ケーブルについて

アンテナの給電点インピーダンスと同軸ケーブルの特性インピーダンスは、50Ωのものをご使用ください。

### ●M型コネクタの処理方法



カップリングは先にケーブルを通しておく

ナイフ・カッター等で外被を切り前ハンダがしやすいように外被を抜き取ってしまわずに、12~13mmの間をあけておく

外被を抜きとり、前ハンダした編組線を10mm程残して切りとり、内部絶縁体を1~2mm残して切りとる芯線にも前ハンダをしておく

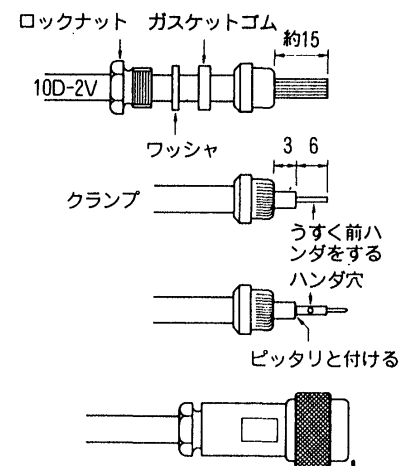
芯線コネクタに通し図のようにハンダ付けを行う

カップリングを図のようにコネクタのネジを越えるまではめ込んでおく

ハンダ付けがしうすくハンダです。

等を使用する内部絶縁物等のように注意し

### ●N型コネクタの処理方法



ロックナット ガasketゴム 約15

10D-2V

ワッシャ 3 6

クランプ

うすく前ハンダをするハンダ穴

ピッタリと付ける

外被を除き、ロックナット、ワッシャ、ガスケットゴムを通し、外部編組をていねいに解く

クランプを通して解いた編組を一本並べに広げ、余った編組を切落し、内部絶縁物、中心導線を寸法どおりに切断し、中心導線にうすく前ハンダをしてから中心コンタクトをハンダ付けをする

コネクタボディに入れ、ロックナットをしっかりと締め付ける

# 11 日常の保守について

## A CPUリセットについて

〔イニシャル(初期状態)に戻すとき〕

本機に電源を投入したとき、または運用中にCPUの誤動作や静電気の外部要因で、ディスプレイの表示内容がおかしくなった場合は、一旦電源を切り、数秒後にもう一度電源を入れてください。それでも異常があれば、次のようにリセット操作を行ってください。

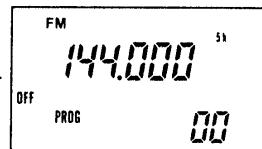
### ■リセット操作

- ①いったん電源をOFFにします。
- ②[FUNC]キーと[ENT]キーを、同時に押しながら、電源スイッチをONにしてください。  
2~3秒間、ディスプレイは全セグメントの表示を行ったのちイニシャルに戻ります。

全セグメント表示



イニシャル表示



約2秒後

### ■リセット操作を行うと

リセット操作を行うと、メモリーの内容、時計、タイマーなどすべてのセットしたものが、初期時(出荷時)の値になります。この操作を行ったときは、メモリーや時計セットをやり直してください。

## B リチウム電池について

本機にはCPUをバックアップするためのリチウム電池と、時計をバックアップするリチウム電池が内蔵されています。

### ■CPU用リチウム電池の交換は

リチウム電池の寿命は約5年ですが、リチウム電池が消耗しますと、CPUのメモリーが消えるため、M-CHに書き込んでいた情報が消え、イニシャル設定値に戻ります。ただし、周波数やモードなどの情報を、そのつど書き込めば使用できます。

リチウム電池の消耗と思われる場合は、お早めにお買い求めいただいた販売店、または最寄りの弊社営業所サービス係にお申し付けください。

### ■時計用リチウム電池の交換は

時計用リチウム電池の寿命は、約1.5年程度です。電池が寿命になりますと、電源を入れ、時計表示にさせたとき完全に時間がくるってしまいます。(通常のデジタル時計と同じ症状になります。)

本機のリチウム電池は、CR2032(3V)を使用していますので、本機をお買い上げいただいた販売店か、家電販売店などでお買い求めの上、交換願います。

※時計用リチウム電池は、本体裏カバーを外しますと、後面パネルの近くに取り付けていますので、電池だけを接点をいためないように、抜き取ってください。



## ㊦故障かなと思っても

■故障かな?と思っても、下記の症状の場合はもう一度参照ページをお読みください。

症 状	原 因	参 照 ページ
● メモリーの内容が消えている	● リチウム電池の完全放電(購入後、数年経過後)	30
● 時計・タイマーがくるう	● 時計用リチウム電池の消耗	30
● 受信音が弱い、歪む、雑音が多いなど正常でない	● 中心周波数に合っていない	10
	● 電波型式がまちがっている	11
	● スケルチが最良の位置に調整されていない	8
	● 機械の内部発振によるもの	3
	● 妨害電波によるもの	3
● アンテナが合っていない	29	
● キーボードまたはダイヤルで選局ができない	● Mモードになっている	8
● M-CHの呼び出しができない	● FRモードになっている	8
● スキャンがスタートしない	● スケルチを左に回しすぎている	8
	● スタート操作のまちがい	14
	● 必要な設定準備をしていない	14
● スキャン中に信号を受信すると、止まったままである	● スキャンストップモードの設定まちがい	15

## ■故障のときは

商品に万一不具合な点があったり、故障が生じたときは、必要な事項を記入した保証書と、具体的な症状を明記のうえ、お買い上げの販売店もしくは弊社サービスステーションへご持参ください。

なお、保証規定につきましては、保証書をよくお読みください。

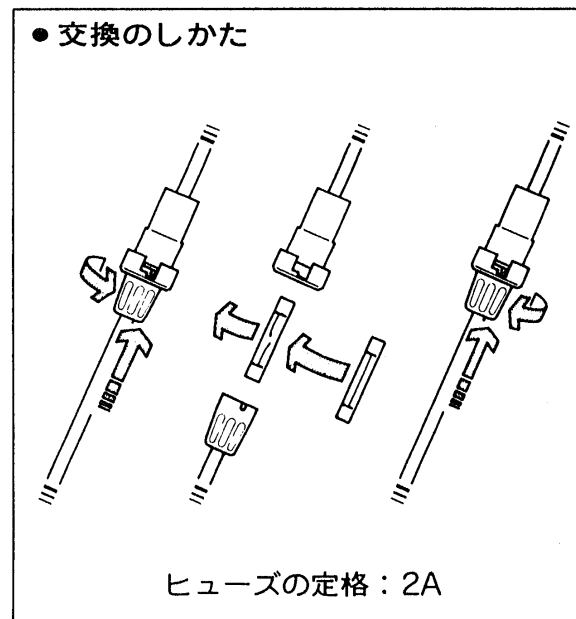
## ■ヒューズの交換方法

DC電源コードにヒューズが付いています。

ヒューズが切れ、本機が動作しなくなった場合は、原因を取り除いた上で、定格ヒューズと交換してください。

①DC電源コードのヒューズホルダーを縦方向に押しながら、ホルダーを開けます。

②切れたヒューズを取り出し、新しいヒューズを元どおりに納めます。



# 受信可能な周波数と電波型式について

## ■周波数と電波型式

周波数帯	電波型式	チューニングステップ
0.100～ 29.000	AM	5 kHz
29.000～ 76.000	FM	5
76.000～ 108.000	W FM	50
108.000～ 137.000	AM	25
137.000～ 170.000	FM	5
170.000～ 225.000	W FM	50
225.000～ 470.000	FM	5
470.000～ 770.000	W FM	50
770.000～1000.000	FM	12.5
1000.000～1300.000	FM	20
1300.000～1856.000	FM	20

※この周波数帯の分類は、本機が受信できる可能性があるものまで含め、電波型式、チューニングステップなど、目的局をとらえやすくしたものです。

## ■周波数分類表の利用のしかた

プログラムスキンの10グループに、上記分類表を応用して、スキヤンしたい周波数帯を限定して記憶させておきますと便利です。本文中11ページのおもな通信用途を参照しながら、スキヤングループを設定してください。

## ■国内テレビ放送(音声)の周波数リスト

チャンネル番号	音声周波数(MHz)	チャンネル番号	音声周波数(MHz)
VHF 1CH	95.750	UHF32CH	589.750
〃 2CH	101.750	〃 33CH	595.750
〃 3CH	107.750	〃 34CH	601.750
〃 4CH	175.750	〃 35CH	607.750
〃 5CH	181.750	〃 36CH	613.750
〃 6CH	187.750	〃 37CH	619.750
〃 7CH	193.750	〃 38CH	625.750
〃 8CH	197.750	〃 39CH	631.750
〃 9CH	203.750	〃 40CH	637.750
〃 10CH	209.750	〃 41CH	643.750
〃 11CH	215.750	〃 42CH	649.750
〃 12CH	221.750	〃 43CH	655.750
UHF13CH	475.750	〃 44CH	661.750
〃 14CH	481.750	〃 45CH	667.750
〃 15CH	487.750	〃 46CH	673.750
〃 16CH	493.750	〃 47CH	679.750
〃 17CH	499.75	〃 48CH	685.750
〃 18CH	505.750	〃 49CH	691.750
〃 19CH	511.750	〃 50CH	697.750
〃 20CH	517.750	〃 51CH	703.750
〃 21CH	523.750	〃 52CH	709.750
〃 22CH	529.750	〃 53CH	715.750
〃 23CH	535.750	〃 54CH	721.750
〃 24CH	541.750	〃 55CH	727.750
〃 25CH	547.750	〃 56CH	733.750
〃 26CH	553.75	〃 57CH	739.750
〃 27CH	559.750	〃 58CH	745.750
〃 28CH	565.750	〃 59CH	751.750
〃 29CH	571.750	〃 60CH	757.750
〃 30CH	577.750	〃 61CH	763.750
〃 31CH	583.750	〃 62CH	769.750

# 定 格

# オプション

受信周波数範囲：0.5~1800MHz

(動作範囲 0.1~1856MHz)

受信電波型式：AM/FM/ワイドバンドFM(WFM)

周波数ステップ：1/5/8/9/10/12.5/20/25kHz

アンテナインピーダンス：50Ω 不平衡

電源電圧：DC13.8V

AC100V ±10%(アダプター使用時)

接地方式：マイナス接地

消費電流(DC13.8V時)：1A以下

使用温度範囲：-10℃~+60℃

寸法(突起物含まず)：150(W)×50(H)×195(D)mm

重量：約2kg

受信方式：スーパーヘテロダイン方式

受信感度：	FM	W FM	AM
0.5~1.63MHz	/	/	+10dBμ
1.63~50.0MHz	-5dBμ	/	+4dBμ
50.0~905MHz	-14dBμ	-4dBμ	-5dBμ
905~1380.5MHz	-10dBμ	-2dBμ	0dBμ
1380.5~1800MHz	-7dBμ	+1dBμ	+3dBμ

※測定条件 FM 12dB SINAD(1kHz, 3.5kDEV)

WFM 12dB SINAD(1kHz, 50kDEV)

AM 10dB S/N (1kHz, 30% DEP)

50~904.999MHzはプリアンプON

選 択 度： FM 15kHz/6dB

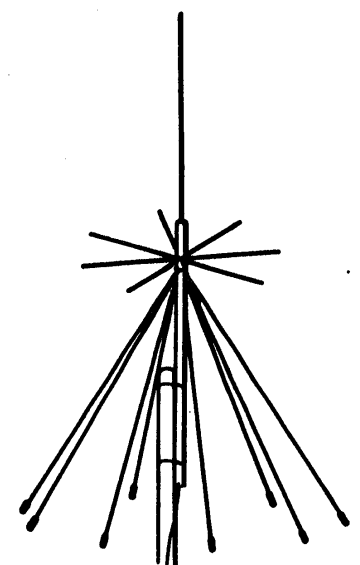
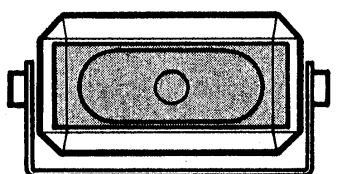
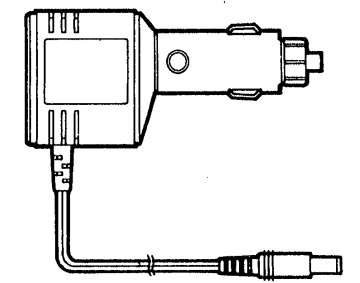
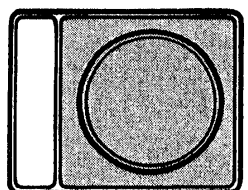
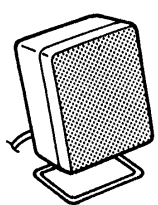
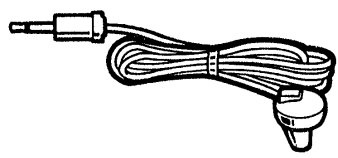
WFM 230kHz/3dB

AM 6kHz/6dB

低周波出力：2.5W以上(8Ω負荷, 10%歪率時)

低周波負荷インピーダンス：4~8Ω

■本機には次のようなオプション(別売品)がありますので、販売店にご相談の上、お求めください。

<p>AH-7000 ディスコーンアンテナ</p> 	<p>SP-10 車載用スピーカー</p> 
<p>CP-11 シガレットライター用電源コード</p> 	<p>SP-12 車載用スピーカー</p> 
	<p>SP-7 屋内用スピーカー</p> 
	<p>ME-35 イヤホン</p> 

■アイコムを受信機[販売店でカタログをご覧ください]

- IC-R9000
- IC-R7000
- IC-R71
- IC-R1

(注2) 定格・仕様・外観等は、改良のため、予告なく変更する場合があります。

高品質がテーマです。

## アイコム株式会社

本社 547 大阪市平野区加美東6丁目9-16  
北海道営業所 060 札幌市中央区大通東9丁目14 TEL(011)251-3888  
仙台営業所 982 仙台市若林区若林1丁目13-48 TEL(022)285-7785  
東京営業所 130 東京都墨田区亀沢1丁目4-18 TEL(03)621-8649  
名古屋営業所 466 名古屋市昭和区長戸町2丁目16-3 TEL(052)842-2288  
金沢出張所 921 金沢市高島1丁目335 TEL(0762)91-8881  
大阪営業所 547 大阪市平野区加美南1丁目8-35 TEL(06)793-0331  
広島営業所 733 広島市西区観音本町2丁目10-25 TEL(082)295-0331  
四国営業所 760 高松市塩上町2丁目1-5 TEL(0878)35-3723  
九州営業所 815 福岡市南区塩原4丁目5-48 TEL(092)541-0211

●サービスについてのお問い合わせは各営業所サービス係宛にお願いします。